KITASKA
キタスカだより

第2号　平成24年10月発行
北部地域住民自治協議会
北部市民サービスセンター内事務局

― 開館から1年半 ―

北部市民サービスセンター所長
今野　郁夫

北部市民サービスセンターは、行政サービスをはじめ、住民自治活動や生涯学習の場を提供する地域交流の拠点施設として、昨年５月に開館いたしました。これまでに約３０万人以上の市民から利用されており、特に当センターの目玉とも言える可動式椅子席を備えた地域文化ホールは、講演会や踊り、各種イベントなど多目的に利用され、大変好評を得ております。

また、子育て交流ひろばにおいては、毎日約７０人以上の親子で大いに賑わっているところです。

今後とも地域の皆様に喜んでいただける魅力ある施設運営に努めてまいります。

KITASKA(キタスカ)講演会

日　時:平成２４年７月８日（日）
　　午後１時３０分～３時
演　題:『被災地からの声』
講　師:津田　喜章氏
（ＮＨＫ仙台放送局アナウンス部）
ＮＨＫ総合テレビ「被災地からの声」
　　キャスター

昨年３月１１日に起こった未曾有の大震災から１年が経ち、報道なども徐々に減少し、私たちの脳裏からも消えつつあります。

この痛ましい大震災を忘れることなく後生に伝えていくことが大切と考え、７月８日にＮＨＫ総合テレビ「被災地からの声」キャスター津田喜章氏をお迎えし、講演会を開催しました。

当日は、およそ２００人の方が来場し、講師みずから取材した映像などを通して語る被災地の現状と課題を熱心に聴き入っていました。

平成24年度
北部地域住民自治協議会総会

平成２４年５月１５日（火）午後４時から土崎港中央にあるホテル大和において、北部地域住民自治協議会の総会が開催され、下記の議案が満場一致で承認されました。

（１）平成２３年度事業報告について
（２）平成２３年度収支決算について
（３）監査報告について
（４）平成２４年度事業計画について
（５）平成２４年度収支予算について
（６）新理事並びに事務局長の承認について
（７）常任理事制度について
（８）慶弔見舞金について

第2回 KITASKA(キタスカ)まつり開催！

９月２８日（金）から９月３０日（日）に開催された第２回ＫＩＴＡＳＫＡ（キタスカ）まつりは、３日間で、３，７５５名の方が来場しました。

❖ 北部地域特産物直売 ❖

北部地区で作られた野菜や手芸品が直売され、午前中で売り切れるほどの大盛況となりました。

❖ 作品展示 ❖

８００点を超える力作ぞろいの作品が一堂に並び、来館者の目を奪っていました。

❖ フリーマーケット ❖

雑貨や衣類などが販売され、多くの方が足を運びました。

9/28

山谷初男の「唄とおしゃべりライブ」

9/29

秋田県仙北市角館町出身。
舞プロモーション所属。俳優として数々の映画やドラマ、舞台などで活躍中。

キタスカまつり２日目の９月２９日（土）に満席の会場の中行われた公演会では、山谷氏が客席から壇上に登場するというサプライズで幕を開けました。

秋田県出身ということもあり、秋田弁を混じえながら自身の辿った道のりなどを軽快なリズムで話され、会場から大きな笑いが飛び交っていました。また、「花咲き山」などの昔話をしっとりとした口調で朗読され、唄では、『僕は３丁目の電柱です』や『秋田音頭』の替え歌などを披露しました。さらに、白衣に着替え、観客の中から選んだ患者役の方に対して医者になりきりながら歌う山谷氏に会場からは惜しみない拍手が送られました。

❖ 子ども縁日 ❖

ポップコーンやわたあめの販売の他、たくさんの子どもたちが輪投げやくじ引き、ヨーヨー釣りを楽しんでいました。

9/29

❖ 星あきらのマジックショー ❖

素晴らしい技の数々に、まばたきを忘れるほど釘付けとなりました。

9/29

❖ 芸能発表 ❖

北部地域で活動している３３団体のみなさんのパワーあふれる発表に、会場は超満員となり、大いに盛り上がりました。

9/30

❖ お茶会（裏千家） ❖

初めての椅子席でのお茶席は、大好評となりました。

9/28

❖ パソコン体験＆カプラで遊ぼう ❖

今回が初めてとなるイベントに、たくさんの方々が参加しました。

9/29

「キタスカまつり」を終えて

北部サークル連絡協議会会長
伊藤允之

自慢の作品の前で話し合う人々（展示会場）。日頃の学習の成果を発表し、会場を沸かせ、有名人の公演に耳を傾け楽しむ人々（地域文化ホール）。子どもを連れた家族連れの方々。その他。

今回のキタスカまつりは、派手さはなくても、このまつりに関係した実行委員および各サークルの方々の熱意によって充実したまつりであったと思います。

キタスカまつりを見に来てくれた人々が期待し、満足し、楽しんでくださり、地域の交流の場となることを願って、サークル間の交流や、仲間同士の交わりを増やしていければと考えております。キタスカまつりを成功させることだけではなく、多くの地域の方々が、このセンターを気軽に利用できることを願っています。

～北部8地区歴史探索～

シリーズ第1回　上新城地区

〈上新城の郷〉

― 上新城の生い立ち ―

永田　賢之助

鎌倉期の『小鹿島文書』に、「男鹿」「方上」と並ぶ「沢の内」が、この地域の歴史上の初見だ。沢の内は主に粒足川（現新城川）が作った河谷平野だが、他に金瀬川（現馬踏川）流域の黒川や片田、外旭川の笹岡まで包含していた。

戦国期、要衝岩城の岡に拠ったのが阿部中務少輔久末で、威風堂々の新城を讃えて、人は新城の殿様と呼んだ。以来、地区の名称も新城と替わってゆき、明治の新町村制で分割され、岩城を境に、川上が上新城となった。

これが有史以前となれば、先住民の遺構は三千年から先の、縄文中期にまで溯る。それらは「上新城中学校遺跡」として、考古学上に名をとどめている。

下って藩政期になると、川の源流部は鉱山開発が進み、佐竹藩の財政を潤した。また当時、並ぶものなしと言われた天然の新城杉は、飯島穀町の港で船積みされて、秀吉の伏見城新築に贈られたという。

近世の上新城村は石油の産出で沸いた。明治７年から始まった採掘は大正８年の大自噴、日産四百石は日本一の見出しで紙面に躍った。同１４年、年間産油量１５７，１３８石に達したのがピークで、昭和２０年で幕を閉じた。

鉱山も油田資源も枯渇し、天然杉と新城米だけの農山村に戻った村は、昭和２９年に秋田市に併合した。山紫水明の環境を生かして、地域は今、老人と心身弱者たちの生きがいのある住み処、福祉の郷を構築している。

〈新城鉱山の開基の昌東院〉

〈自然公園 道川大滝〉

〈地区西部横断の自動車道〉

平成23年度施設利用状況（平成23年5月16日～平成24年3月31日）

利用者総数：９６，０２８名

内訳　部屋利用：６１，４９６名

体育館利用：３４，５３２名

主な施設稼働率

地域文化ホール：７３．０７％

体　育　館：９５．１１％

＊一日平均３００名を超える皆様からご利用いただきました。＊